

令和 8 年度鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻(修士課程)
〔第 2 次募集〕入学者選抜試験 論述試験出題の意図

A. 共通問題

ドーピングやドーピング防止に関わる組織とその活動に関する正しい知識や理解を有することは、様々な立場でスポーツに携わり、競技者やスポーツの価値を保護する上で重要である。今後、体育学を専攻しようとする受験生にとっては、知識と理解が必要な事項と考えたため問うこととした。

B. 選択問題

問題番号1 運動処方において適切な運動強度を指示する際、メッツは最も良く用いられる絶対的運動強度指標の一つである。今後の国民の健康づくりを担う人材となるべく、本学の修士課程に入学しようとする受験生にとって、必須の知識であろうと考えたため問うこととした。

問題番号2 公共スポーツ施設の効率的・効果的な管理運営を行う上で、指定管理者制度は広く活用されているものである。今後、体育学を専攻しようとする受験生にとっては、知識と理解が必要な事項と考えたため問うこととした。

問題番号3 体幹トレーニングは、アスリートにとって欠かせないトレーニングである。また、アウターマッスルであるグローバルマッスルだけでなく、インナーマッスルであるローカルマッスルも鍛えることが重要である。今後、体育学を専攻しようとする受験生にとっては、この知識は知っておく必要があり、また、それぞれの筋のトレーニング方法も熟知しておく必要があると考え、問うこととした。